



絵都さんからの手紙

明けましておめでとうございます。穏やかな天気のお正月、幕張・検見川・稲毛の浜からは富士山を見ることができました。冬期講習中も中3・高3の受験生をはじめとして誰もインフルエンザなどにかからず元気に通っています。

さて、森絵都さんという女性作家をご存知でしょうか。世界中の難民のために力を尽くす国連の機関 UNHCR の職員を描いた「風に舞いあがるビニールシート」で直木賞を受賞していますが、出発点は児童文学です。塾の本棚から借りていく人も多い「カラフル」という作品には「意表をつくストーリーと主人公の気持ちの変化がおもしろかった。」という感想をよく耳にします。さらに「生きていく意味について初めて考えてみた」という人もいました。森さんは中学生のころ千葉市に住んでいたそうで、そのころのことが題材の一部と思われる「永遠の出口」という本も塾に置いてあります。そして今回、千葉県の学習塾を舞台にした「みかづき」という作品を発表されました。昭和30年代から現代までの3世代にわたる家族の物語ですが、かなりの長編にも関わらず思わず引き込まれて読み終えてしまいました。その後、千葉学習塾協同組合の10周年と20周年の記念誌を資料としてお送りしたところ、ご本人直筆のお手紙をいただきました。「子どもたちに近い場所で奮闘されている皆さまのご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。」と結ばれていて力づけられました。「みかづき」の中には「教育は子どもをコントロールするためにあるんじゃない。不条理に抗う力、たやすくコントロールされないための力を授けるためにあるんだ。」と主人公の一人がつぶやく場面があります。この塾がめざしていることもささやかながらそこに行き着きます。

さあ2017年、まずは足元を見つめて、今できること、今しなければならぬこと、今大切にしたいことを確実に実行していきませんか。みなさんが去年より一歩でも踏み出せた自分に出会える年になるように応援していきますよ！